

【軽米町】 校務DX計画

1 現状

軽米町では、令和3年度に児童生徒の1人1台端末を整備し、令和6年度より統合型校務支援システムを町内全小中学校に導入し、ICTを活用した教育活動が着実に進展している。

今後はこれまでの取組を基盤にしつつ、教職員の職場環境改善や教育の質向上を目指し、校務DXを進めていくために、「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」の自己点検結果を踏まえ、以下が課題となっています。

2 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

町内小中学校の「校務DXチェックリスト自己点検結果」から校務のデジタル化が進んでいないことから、特に以下の点について各学校と連携し校務DXの推進を図っていく。

(1) FAX・押印・名簿手入力等の制度・慣行の見直し

自己点検の結果から、FAXを日常業務で使用している学校が過半数あり、押印・署名をしている文書も多くあることから、FAXの送付や押印を求めている関係団体、事業者を把握し、制度・慣行の見直しを行う。

また、校務支援システムを導入し、名簿情報等の管理をデータ取込みすることで不要な手作業を削減することで事務効率の向上を図ることが出来た。

今後は、他の手作業で行っていたものを見直し、さらなる作業効率化及び負担軽減を図る。

(2) GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

令和7年度に教職員用端末の更新が完了したことに伴い、校務用と指導用の端末1台化が完了した。また、教育データの活用等の観点から、校務系と学習系のネットワークを統合することについてもICT支援員及び学校と連携し協議を進めていく。

令和6年度より校務支援システムを導入したが、教職員間の情報共有や連絡、会議資料のペーパーレス化について、各学校、教育委員会が連携し課題等を特定のうえ、利用促進に向けた課題解決に取り組むと共に、文部科学省の「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況に留意しつつ、次世代の校務支援システム導入について検討を進める。

また、業務にクラウドツール等を利用するにあたってのルール策定について各学校と連携し進めていく。